

日本を夢みて

Joan Miró  
and Japan

展

ジュニアガイド



©三浦よし木

2022 4/29 fri. - 7/3 sun

愛知県美術館

愛知芸術文化センター10階  
0527-9900 AICHI ARTS CENTER

目玉が  
ぎよろり  
なんて  
人が浮いて  
るの？

【休館日】毎週月曜日 【開館時間】10:00~18:00 金曜は20:00(入館は閉館30分前まで)

【観覧料】一般 1,800(1,600)円、  
高校・大学生 1,200(1,000)円、

中学生以下無料

・( )内は前売および20名以上の団体料金

【主催】愛知県美術館、中日新聞社、  
東海テレビ放送

【協賛】アイシン、東海東京証券、ライブアート  
ボックス [協力]ヤマト運輸 [後援]スペイン  
大使館、インスティテット・セルバンテス東京、  
名古屋スペイン協会、JR東海 [出品協力]  
ヒラール&ジュアン・ミロ財団、マジョルカ

【お問い合わせ】

愛知県美術館 052-971-5511(代)

T461-0525 名古屋市東区東桜1-13-2



オレンジ  
色の息？  
それとも  
月？

両手を  
ふりあげて、  
何してるの？

マジョルカ大聖堂のなか  
©スペイン政府観光局



ミロって？

スペイン・カタルーニャ地方  
のバルセロナに生まれた芸  
術家ジュアン・ミロ。芸術の  
都バリと故郷の田舎町を  
行ったり来たりしながら、絵  
だけじゃなく陶芸や彫刻、版  
画など何にでも取りくみま  
した。トゲ一本で大きな木  
を表現したり、絵の中に大胆  
に詩を書き込んだり、ミロに  
しかできない表現がたくさん。

漫画家・  
三浦よし木が  
若き日のミロを描いた  
マンガを、会期中  
ウェブサイトでも公開  
しています。



グネグネと  
ねじれた  
黒い線は  
なんだろう？

ジュアン・ミロ

《ゴシック聖堂でオルガン演奏を  
聞いている踊り子》

1945年 油彩、キャンバス 福岡市美術館  
©Successió Miró/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304

まるで宇宙人みたいな、不思議な格好のひとたち。この絵のタイトルは、《ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子》。なるほど、グネグネの黒い線はオルガンで、両手をあげているのは演奏者でしょう。スペインの独裁者に追われていたミロは、マジョルカという島でひっそりと絵を描き続けました。そんなミロの孤独を癒してくれたのは、大聖堂でぼんやり過ごすひととき。薄暗い聖堂のなかに、スタンドグラスから色とりどりの光が差し込み、誰かがオルガンを弾いているのが聴こえてきます。ミロはそんな体験をもとに、この絵を描きました。



©The Museum of Modern Art, New York, France, New, Schenborn Bequest, 1994 (Licensed by Art Resource, NY)



日本の陶芸を学んだ友達と、やきものづくりに熱中!

ミロの友達で陶芸家のアルティガスは、えらい画家たちは下絵を渡すだけであとはおまかせなのに、ミロだけ一緒に土をこねるんだ、と嬉しそうに語りました。

ジュセップ・リウレンス・イ・アルティガス、  
ジュアン・ミロ《花瓶》  
1946年 炆器 個人蔵

### 友達の肖像画に浮世絵をべたり!

この友達、実は版画の勉強のために浮世絵を集めていました。ミロはそんな友達の気持ちをこの絵で表そうとしたのかもしれませんが。

ジュアン・ミロ  
《アンリク・クリストフル・リカルの肖像》  
1917年 油彩・コラーージュ、キャンバス  
ニューヨーク近代美術館

### 憧れの芸術家は、葛飾北斎。

「ただ一本の線やひとつの点に生氣を与えたい」。ミロは北斎のそんな姿勢に共感していました。

ジュアン・ミロ  
《絵画(パイプを吸う男)》  
1925年 油彩、キャンバス  
富山県美術館

# ミロは日本が大好き!



ジュアン・ミロ《マキモノ》(部分) 1956年 捺染、絹 町田市立国際版画美術館

### 自分でマキモノ風の作品も作っちゃう!

なんと8mもある絹のマキモノ。ミロは日本の掛軸や巻物のように縦や横にながーいかたちの絵を好んで描きました。

この展覧会は...

スペインからは飛行機で15時間以上かかる遠い国、日本。ミロは若い頃からそんな日本の文化や美術に強いあこがれを持っていました。浮世絵や俳句の面白さ、やきものの奥深さ、文字が紙の上を自由に踊る書の魅力を、ミロは自分の作品にも取り込んでいきます。

そんなミロの作品を集めたのがこの展覧会です。身近にあるものはなんでも使うミロの作品は、あちこちにガサガサ、ザラザラ、フワフワ、ピシャピシャ...と面白い質感がたくさん。ぜひ間近で本物を見てみてくださいね!

All Works by Joan Miró/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304



Photographic Archives Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofía, Madrid

### 文字は絵みたい、絵は文字みたい

「私は絵画と詩を区別しません」というのがミロの口ぐせ。文字が画面の中をぐねぐねと動き回り、人に巻きついてくるかのようです。

ジュアン・ミロ  
《絵画(カタツムリ、安、花、星)》  
1934年 油彩、キャンバス  
国立ソフィア王妃芸術センター



Fundació Joan Miró a Mallorca Photographic Archive

### 日本の書をきっかけに

憧れの日本に来て、実際に書に触れたミロ。スペインに戻るとすぐにその身振りを真似してみました。

ジュアン・ミロ  
《絵画》  
1966年 油彩・アクリル・木炭、キャンバス  
ピラール&ジュアン・ミロ財団、マジョルカ